

(技術名) 八重山地域でのパインアップル「沖農P19」の5月収穫時の適切な果皮着色程度							
(要約) 八重山地域における「沖農P19」の露地栽培において、5月に収穫する際の果皮着色程度については、50%以上で収穫することで、良食味果実の割合を高めることができる。							
農業研究センター石垣支所					連絡先	0980-82-4067	
部会名	果樹	専門	栽培	対象	パインアップル	分類	普及
普及対象地域	八重山地域						

[背景・ねらい]

生食用パインアップル品種「沖農 P19」の出荷ガイドラインでは、八重山地域で5月から8月に収穫される果実をホワイトココ®として販売できることや、収穫時における黄色または橙色に着色した小果の占める割合（以下、「果皮着色程度」）を10%以上とすることが定められている（図1）。しかし、5月に収穫される果実では、果汁酸度が高く、「沖農P19」の良食味基準値（果汁糖度 15.3°以上、果汁酸度 0.85%以下および糖酸比 19.5以上）を全て満たす果実の割合（以下、「良食味果実割合」）が低い傾向にある。パインアップルでは、果実の成熟に伴い、果皮着色程度が高くなると同時に、果汁酸度も低下する。このため、出荷ガイドラインに定められた基準より高い果皮着色程度で収穫することで、良食味果実割合を高められる可能性がある。そこで本研究では、5月収穫果実における良食味果実の割合を向上させるため、果皮着色程度別の果汁品質を調査し、5月収穫時における適切な果皮着色程度を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 果皮着色程度 50%以上の果実における果汁酸度は、果皮着色程度 50%未満の果実より低く、平均値は良食味基準を満たす（図2）。
- 果皮着色程度 50%以上の果実における良食味果実割合は約70%となり、果皮着色程度 50%未満での良食味果実割合より高い（図3）。
- 水浸状果実の発生果率については、果皮着色程度による差が見られない（図3）。

[成果の活用面・留意点]

- 八重山地域の生産者が、5月に「沖農P19」を収穫する際の参考資料として活用する。
- 本技術は、農業研究センター石垣支所において、2020年から2024年にかけて健全株から収穫した果実を、収穫日当日に分析した結果について取りまとめたものである。
- 果皮着色程度を高めて収穫すると貯蔵性が低下するため、市場出荷する際には、果皮着色程度 50%以上 75%未満で収穫する。

[具体的データ]

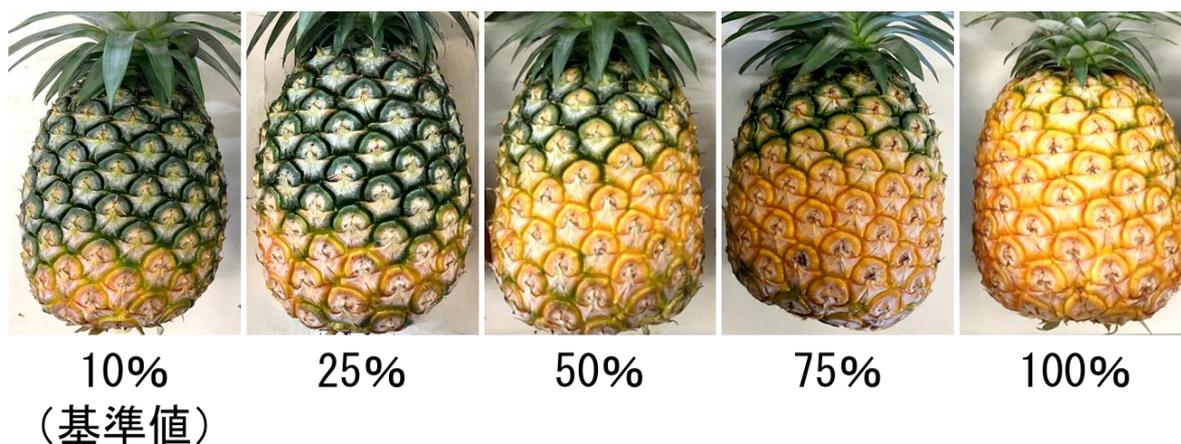


図1 果皮着色程度別の果実外観

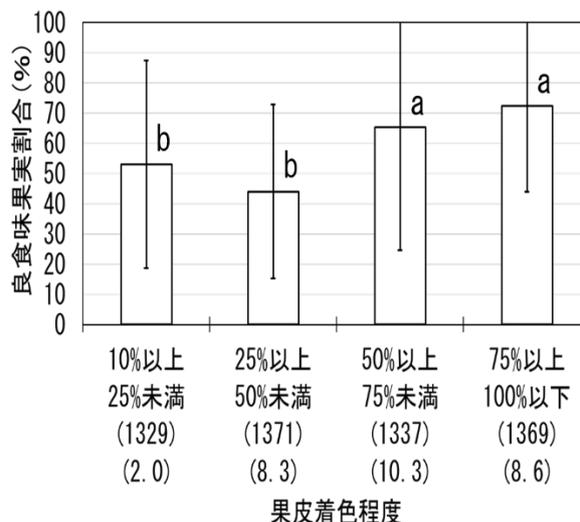
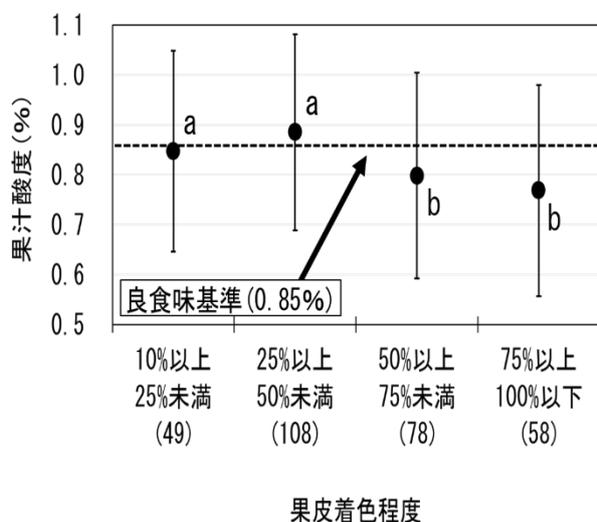


図2 果皮着色程度別の果汁酸度

注1) 図中の値は供試果実の平均値、エラーバーは供試果実の標準偏差を示す。

注2) 括弧内の値は供試数を示す。

注3) 異符号間には有意差あり (説明変数を果皮着色程度、調査年をランダム効果、ガンマ分布を仮定してリンク関数をlogとした一般化線形混合モデルについて、Tukey多重比較を行った($P < 0.05$))。

図3 果皮着色程度別の良食味果実割合

注1) 図中の値は供試果実の平均値、エラーバーは調査年ごとの値の標準偏差を示す。

注2) 上段の括弧内の値は供試果実の果実重(g)、

下段の値は水浸状果実の発生率(%)を示す。

注3) 異符号間には有意差あり (説明変数を果皮着色程度、調査年をランダム効果、2項分布を仮定してリンク関数をlogitとした一般化線形混合モデルについて、Tukey多重比較を行った($P < 0.05$))。

[その他]

課題ID: 2019農001、2022農012

研究課題名: 気候変動対応型果樹農業技術開発事業

生食用パインアップル「沖農P19」等における高品質安定生産技術の確立

予算区分: 沖縄県特別推進交付金 (気候変動対応型果樹農業技術開発事業)

県単 (生食用パインアップル普及促進事業)

研究期間 (事業全体の期間): 2020~2024年度 (2019~2024年度)

研究担当者: 與那覇至、宮里進、東嘉弥真勇人

発表論文等: なし